

# 2023年12月期第2四半期決算 に関する説明会

---

2023年8月2日

鳥居薬品株式会社

代表取締役社長 松田剛一

# 目次

---

1. 2023年12月期第2四半期決算概要
2. 2023年12月期業績修正予想
3. 「中期経営計画2023-2025」の進捗
4. 将来の成長へ向けた投資と株主還元について

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績等は、様々な要素により、これらの業績見通し等とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見直しを見直すとは限りません。

# 1.2023年12月期 第2四半期決算概要

---

# 1.2023年12月期第2四半期決算概要

## <決算のポイント>

### ➤ 売上高：増収

アレルギー領域、皮膚疾患領域における販売数量の伸長等により、前年同期比2,596百万円（11.2%）増収。

### ➤ 営業利益：減益

仕入単価の上昇及び為替影響等により売上原価が増加、また、尋常性ざ瘡治療薬ライセンス契約締結一時金（研究開発費）の発生により、前年同期比▲1,171百万円（43.7%）減益。

### ➤ 研究開発費控除前営業利益：増益

上記ライセンス契約締結一時金を含む研究開発費を除けば、売上高増加により、前年同期比658百万円（20.2%）増益。

（単位：百万円）	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増▲減	増▲減率(%)
売上高	23,102	25,699	2,596	11.2
売上原価	12,049	13,770	1,720	14.3
売上総利益	11,052	11,928	876	7.9
販管費 (うち研開費)	8,370 (583)	10,418 (2,413)	2,047 (1,829)	24.5 (313.5)
営業利益 (研開費控除前営業利益)	2,682 (3,266)	1,510 (3,924)	▲1,171 (658)	▲43.7 (20.2)
経常利益	2,468	1,543	▲925	▲37.5
当期純利益	1,845	1,086	▲758	▲41.1

# 1.2023年12月期第2四半期決算概要：領域別売上高 対前年同期比

皮膚疾患領域、アレルギー領域における販売数量の伸長等により、全体としては増収

腎・透析領域

▲110

皮膚疾患領域

+674

アレルギー領域

+1,608



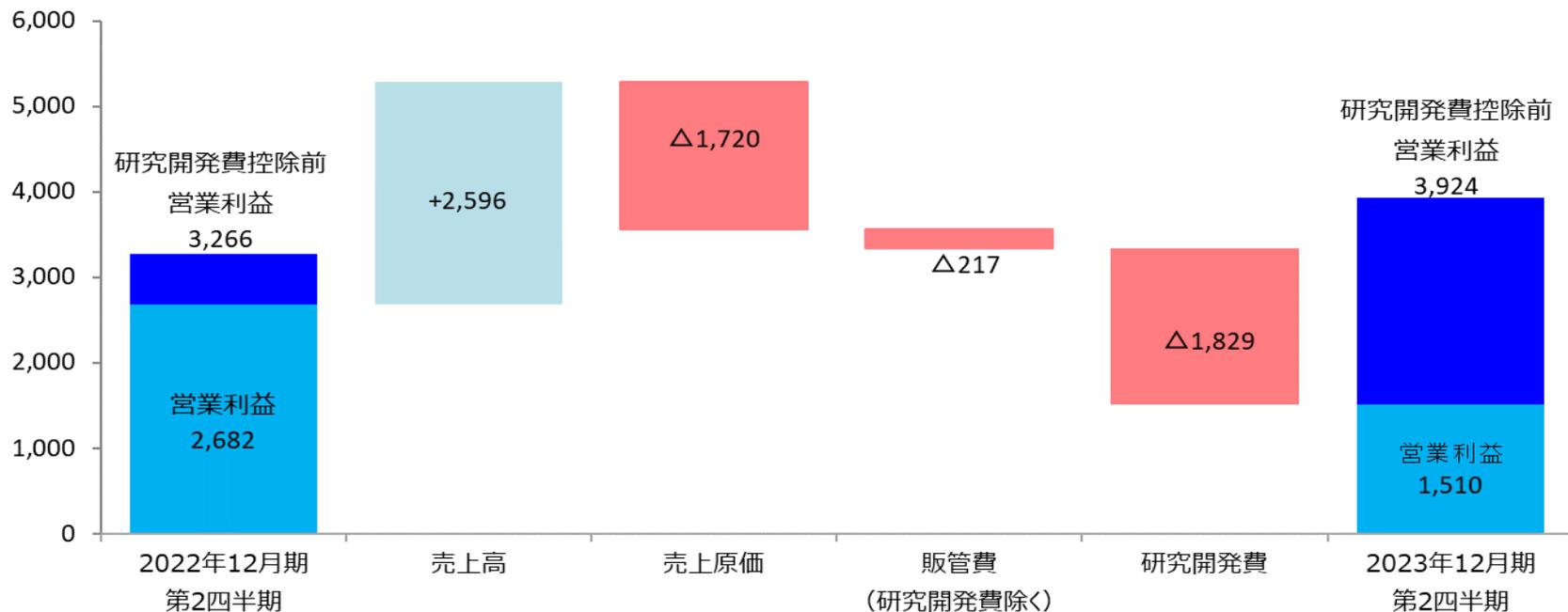
## 主な増減要因（億円未満切り捨て）

腎・透析領域	減収△1億円	リオナ	: 増加	▲	IDA適応追加
		レミッチ	: 減少	▼	薬価改定及び後発品の影響
皮膚疾患領域	増収+6億円	コレクチム	: 増加	▲	市場浸透・拡大、小児適応追加
アレルギー領域	増収+16億円	シダキュア	: 増加	▲	アレルギー免疫療法の更なる普及
		ミティキュア	: 増加	▲	

# 1.2023年12月期第2四半期決算概要：対前年同期増減要因

**【営業利益】（1,510百万円 対前年同期▲1,171百万円）**

**【研究開発費控除前営業利益】（3,924百万円 対前年同期+658百万円）**



## 主な増減要因（億円未満切り捨て）

売上原価	増加 + 17億円	販売数量の増加、仕入単価の上昇、為替影響等により増加
販管費 (研開費除く)	増加 + 2億円	売上連動経費(ロイヤリティ)の増加、販売促進費の増加、従業員への特別一時金支給（インフレ手当）
研究開発費	増加 + 18億円	Nogra社とのライセンス契約一時金等の支払いによる増加 臨床試験費用（TO-208）の増加

## 2. 2023年12月期業績修正予想

---

## 2. 2023年12月期業績修正予想の概要

### <2023年12月期業績修正予想のポイント>

#### ▶ 売上高：増収

アレルギー領域、皮膚疾患領域における販売数量の伸長等により、増収見込。

#### ▶ 営業利益、研究開発費控除前営業利益：変更無し

売上高は増収見込みであるものの、仕入単価の上昇、セールスマックス、為替影響等による売上原価の増加等により、営業利益以下の利益面では前回予想から変更なし。

### ◆ 2023年12月期業績修正予想

(単位：百万円)

	前回予想	修正予想	増▲減	増▲減率(%)
売上高	50,900	52,700	1,800	3.5
売上原価	26,800	28,300	1,500	5.6
売上総利益	24,100	24,400	300	1.2
販管費	20,000	20,300	300	1.5
(うち研開発)	(3,530)	(3,530)	(-)	(-)
営業利益	4,100	4,100	-	-
(研開発控除前営業利益)	(7,630)	(7,630)	(-)	(-)
経常利益	4,400	4,400	-	-
当期純利益	3,100	3,100	-	-

## 2. 2023年12月期業績修正予想：領域別売上高・前回予想比

皮膚疾患領域、アレルギー領域における販売数量の伸長等により、前回予想より増収見込

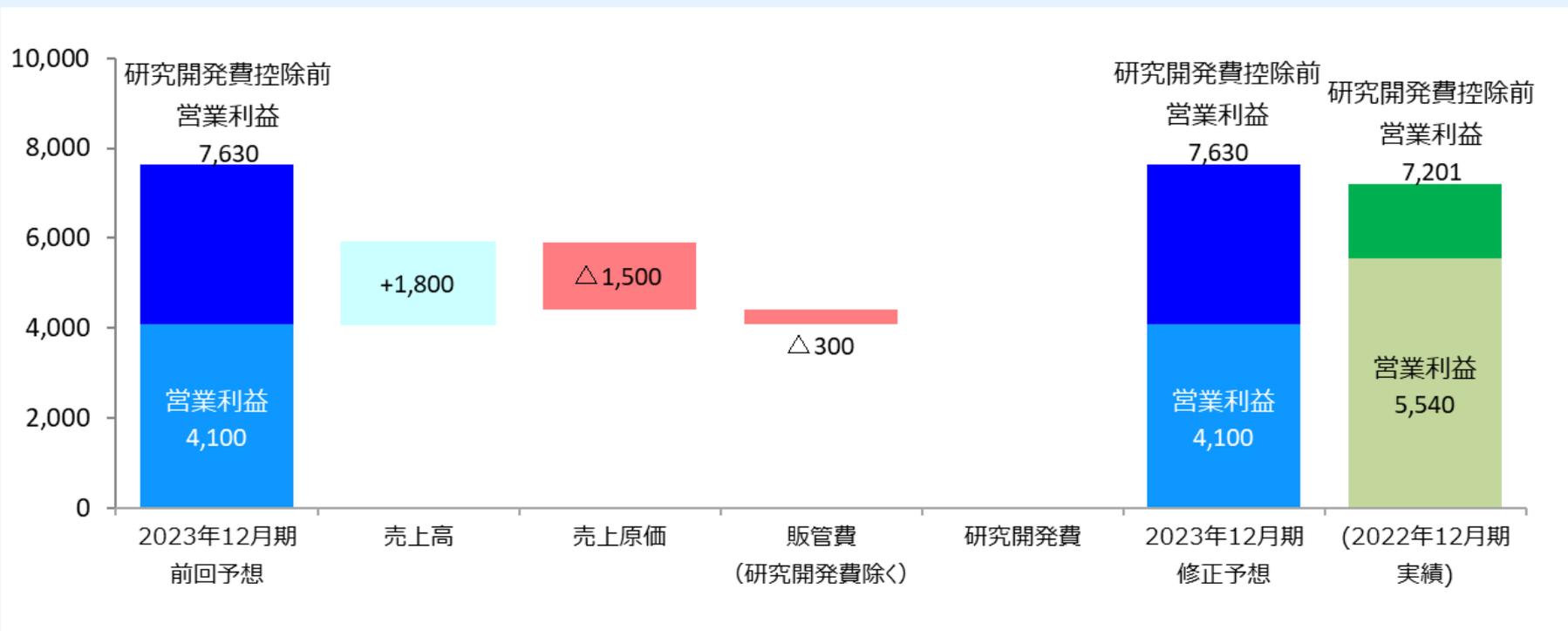


### 主な増減要因（億円未満切り捨て）

腎・透析領域	増収+3億円	リオナ	: 増加	▲	当初6月発売と見込んでいた後発品の発売がなく、影響が小さくなったため、見込みを修正
皮膚疾患領域	増収+4億円	コレクチム	: 増加	▲	市場浸透・拡大
アレルギー領域	増収+11億円	シダキュア ミティキュア	: 増加 : 増加	▲ ▲	アレルギー免疫療法の更なる普及

## 2. 2023年12月期業績修正予想：対前回予想増減要因

### 【営業利益、研究開発費控除前営業利益】（前回予想から変更無し）



### 主な増減要因（億円未満切り捨て）

売上原価	増加 + 15億円	販売数量の増加、仕入単価の上昇、セールスマックスによる増加、為替影響による増加
販管費 (研開費除く)	増加 + 3億円	前回予想を上回る売上連動経費（ロイヤリティ等）の増加、営業活動経費の増加

## **3. 「中期経営計画2023-2025」の進捗**

---

### 3.「中期経営計画2023-2025」：計数指標

- ✓ VISION2030の目指す姿実現に向け、「中期経営計画2023-2025」の計数指標としては、売上高及び研究開発費控除前の営業利益を設定
- ✓ 2025年度ガイダンス、VISION2030の目指す姿について修正なし
- ✓ 中長期的な業績に影響を与えるリスクとして、シダキュア、ミティキュアについて、直近の売上高の伸長が続いた場合、今後数年以内に市場拡大再算定（薬価引き下げ）※5を受ける可能性

2023年度 修正予想	2025年度 ガイダンス※2	VISION2030の 目指す姿
売上高	売上高	過去最高の売上高※3 を更新する
527億円	540～570億円	
営業利益 (研究開発費控除前) ※1	営業利益 (研究開発費控除前) ※1	過去最高益※4 更新を射程に入れる
76億円	90～100億円	

※1：研究開発費は、中長期的な成長に向けた積極的な事業投資により大きく変動する等、現時点において見通すことが困難であるため、利益面における指標は、研究開発費を控除する前の営業利益を計数指標としております。

※2：現時点での会社としての概算額を示す参考値であり、達成を目指す目標として位置づけるものではありません。

※3：641億円（2017年12月期）

※4：営業利益 133億円（2001年3月期）

※5：市場拡大再算定とは、年間販売額が薬価収載時の予測と比べて大きく拡大する場合、薬価を引き下げるという薬価制度上のルールです。シダキュア、ミティキュアに関しては、年間販売額が150億円以上となる場合、最大で15%の薬価引き下げを受ける可能性がございます。当該リスクについてはVISION2030に一定の想定の上、織り込み済みです。

## 3.「中期経営計画2023-2025」：主要施策

再掲載：2023年2月10日開示資料

### <ポイント>

1. 2022年度に引き続き「成長戦略」と「ステークホルダーからの信頼維持」の2本柱を継続
2. 主要施策に「サステナビリティへの取り組み」を新規追加

### <成長戦略>

- 成長期新薬の普及・育成・価値最大化  
(エナロイ、リオナ、コレクチュム、シダキュア、ミティキュア、オラデオ)
- 新薬開発の推進 (JTE-061、TO-208)
- 導入体制の強化
- 経営戦略に沿った人事制度等の整備と働き方改革
- 企業風土改革

### <ステークホルダーからの信頼維持>

- 安定供給体制の整備・強化
- 薬事規制の遵守と品質保証
- コンプライアンスの強化
- コーポレートガバナンスの強化
- サステナビリティへの取り組み

## 3.「中期経営計画2023-2025」主要施策の進捗

### ◆ 主要施策の主なトピック（2023年7月31日時点）

#### 1. 成長期新薬の普及・育成・価値最大化

##### （エナロイ、リオナ、コレクチム、シダキュア、ミティキュア、オラデオ）

- 各製品とも着実な伸長（対前年同期比売上増）
- コレクチム：利便性向上、対象患者さんの拡大による価値向上
  - ✓ 「コレクチム軟膏」添付文書改訂（乳幼児アトピー性皮膚炎患者を対象とした国内における第Ⅲ相臨床試験結果を反映）（2023年1月）

#### 2. 新薬開発の推進（JTE-061、TO-208）

- 各開発品とも順調な進捗
  - ✓ 「JTE-061」製造販売承認申請に向けた準備
  - ✓ 「TO-208」伝染性軟属腫を適応症とした国内における第Ⅲ相臨床試験継続

#### 3. 導入体制の強化

- 積極的な導入活動を通じ、新たに1件の導入品獲得
  - ✓ Nogra社の尋常性ざ瘡治療薬（NAC-GED-0507）国内でのライセンス導入契約締結（2023年1月）

#### 4. 安定供給体制の整備・強化

- シダキュア：安定供給のために必要な方策の実施
  - ✓ シダキュアの原料であるスギ花粉の調達を一元的に担当する部門として「原料調達部」を設置（2023年8月1日付）
  - ✓ シダキュア販売数量増加に対応するため、原薬製造設備の設備投資を意思決定（2025年稼働開始予定）

## 補足：「中期経営計画2023-2025」主要施策の進捗

### ◆「花粉症に関する関係閣僚会議」等を受けた当社対応について

令和5年5月30日「花粉症に関する関係閣僚会議」にて決定された「花粉症対策の全体像」及び首相会見の中で、発症・曝露対策の今後の取り組みについて、「舌下錠を用いた舌下免疫療法については、年間の治療薬供給量を、今後5年以内に、現在の約25万人分から約100万人分へと増加させるべく、森林組合等への協力要請、企業への増産に向けた要請等に速やかに着手する」旨等の発表がありました。

また、同日、厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課より事務連絡として「スギ花粉舌下免疫療法で使用される医薬品の安定供給について」を受けました。

今回の発表及び事務連絡を受けて、当社としては、政府の花粉症対策に対し真摯に対応させていただく考えであり、必要に応じて関係各省庁からの協力をいただきながら、引き続きスギ花粉症の舌下免疫療法を必要とされている患者さんが適切に治療を受けられる環境整備と、中長期的な需要に応じた製品の安定供給体制の構築、拡充に取り組んでまいります。

なお、上記政府要請に関わらず、シダキュアについては、直近の売上高の伸長が続いた場合、今後、市場拡大再算定（薬価引き下げ）を受ける可能性があります。シダキュアの販売動向については引き続き注視してまいります。

# 参考：研究開発パイプラインの概要

開発番号	予定 適応症等	剤形等	国内開発段階				
			Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認

## 皮膚疾患領域

JTE-061	アトピー性 皮膚炎	外用剤					
	尋常性乾癬	外用剤					
	小児アトピー性 皮膚炎	外用剤					
TO-208	伝染性軟属腫	外用剤					

## アレルギー領域

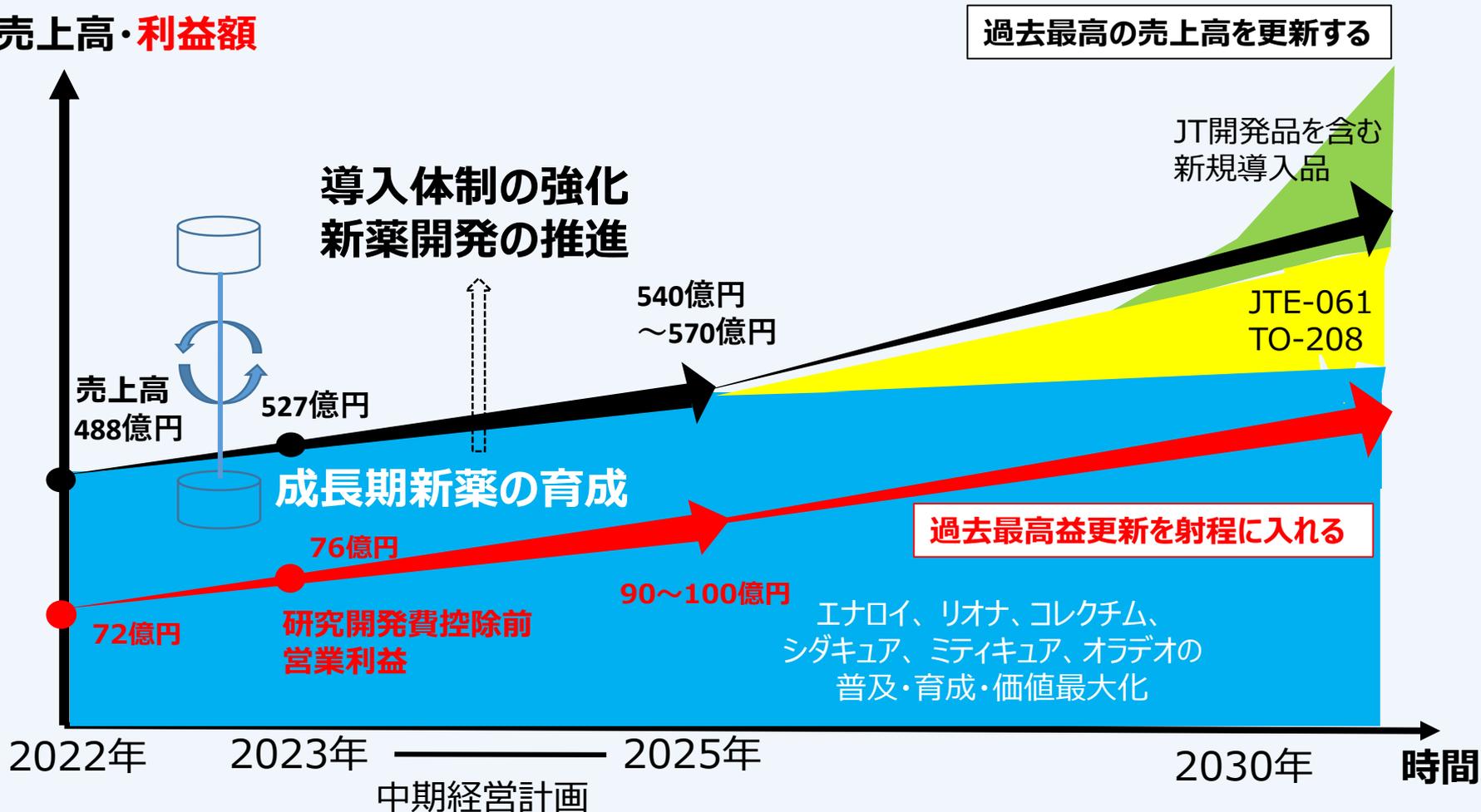
TO-203 「ミティキュア」	室内塵ダニ アレルギー疾患 (喘息)	舌下錠					
--------------------	--------------------------	-----	--	--	--	--	--

前回公表時（2023年4月28日）からの変更点なし

# 3.「中期経営計画2023-2025」と「VISION2030」

## 戦略と施策、計数の概要

売上高・利益額

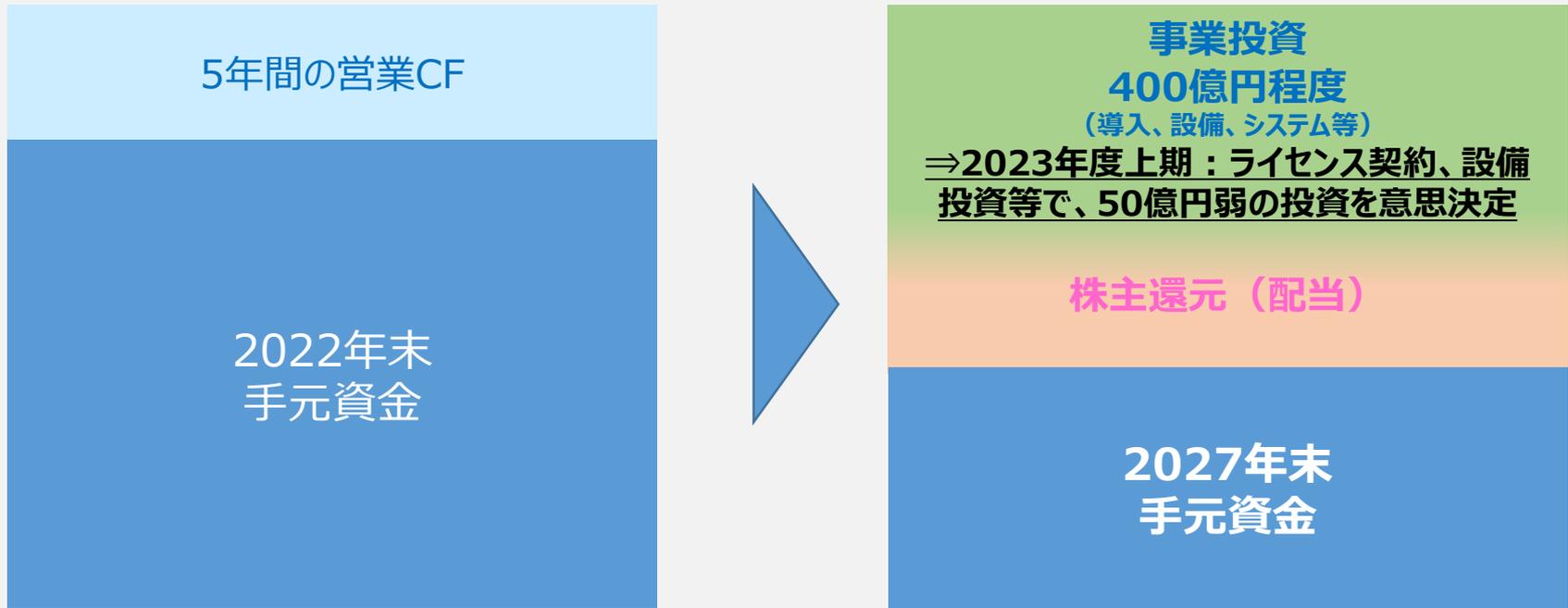


## 4. 将来の成長へ向けた投資と 株主還元について

---

## 4. 将来の成長へ向けた投資と株主還元について

### ◆ 参考：集中的な投資が一段落する2027年末までの キャピタル・アロケーション（イメージ）



（注）上記キャピタル・アロケーションは、将来的な投資規模の目標として位置づけるものではありません。

## 4. 将来の成長へ向けた投資と株主還元について

### 将来の成長へ向けた投資について

- シダキア販売数量増加に対応するため、既に30億円規模の設備投資を意思決定  
⇒今後も、需要予測を踏まえ、更なる増産体制構築に向けた追加投資の検討を継続
- Nogra社の尋常性ざ瘡治療薬（NAC-GED-0507）国内でのライセンス導入契約一時金等：約17億円  
⇒引き続き新規導入品獲得に向けた情報収集、探索、交渉を継続

### 株主還元について

- 継続的かつ安定的な配当を実施するとの基本方針の下、将来の事業成長を目指した中長期的な視野に立った投資や財務の状況等を勘案したうえで、株主還元の充実を図る。
  - ・2023年度配当：上記方針・考え方の下、1株当たり年間100円の配当実施予定
  - ・2023年度中間配当：期初予定通り1株当たり50円の配当を実施
- 今後も、継続的かつ安定的な配当の実施を基本方針としつつ更なる充実を図る考えであり、業績や投資の進捗等を勘案しながら中長期的なDOEの向上に努め、将来的に同業他社と遜色のないDOE水準を目指す。

### 配当推移

年度	2022年度	2023年度
一株当たりの配当金	計100円 中間配当：24円 期末配当：76円	計100円（予定） 中間配当：50円 期末配当：50円
DOE	2.4%	—
ROE	3.3%	—
配当性向	71.2%	90.6%

ご多用のところ  
ご参加いただきまして  
ありがとうございました